

年間第二主日

2015.1.18

ヨハネ 1・35-42

教会の典礼の暦に従ってささげられる日曜日のミサは、クリスマスの喜びのうちに過ごした降誕節を超えて、今日は年間第二主日を迎えています。

クリスマスとそれに続く降誕節の季節は、わたしたちが生きる世界の中に神が訪れてくださり、ご自分を示してくださったことを、信仰のうちに受け止めた教会の喜びに満ちた祝いの季節です。わたしたちは洗礼を受けて、教会の一員となったことによって、キリスト教の教会に伝えられてきた信仰を共有する者たちとして、ベツレヘムの馬屋のお生まれになったイエス・キリストにおいて、神がわたしたちの世界に訪れてくださったことを喜びあったのです。わたしたちが受け入れて、その信仰を生きる者たちとなった、キリスト教の教会に伝えられてきた信仰においてはイエス・キリストはそのようなお方です。つまり、イエス・キリストにおいて、神はわたしたちが生きるこの世界に、わたしたちと同じ一人の人となってお生まれになり、福音書を通してわたしたちが知ることの出来る、あのようなご生涯をわたしたちに示してくださったのです。神がその被造物であるわたしたち人間への愛のために、自ら人となってくださったこの神の愛の神秘を、キリスト教の教会の信仰は、わたしたちにとってもう少し理解しやすくするために、ベツレヘムの馬屋のお生まれになったイエス・キリストを神の子とお呼びします。イエス・キリストを神の子とお呼びするキリスト教の信仰は、ベツレヘムの馬屋でお生まれになったイエス・キリストは、そのようにしてわたしたちの世界に訪れてくださった神であるということを行い表そうとしているのです。

神の子としてわたしたちの世界にお生まれになられたイエス・キリストは、その人としてのご生涯を通して、わたしたち全ての者に、神の子として生きる道を示してくださったのです。それが神の被造物としてわたしたちの、本来のあるべきあり方だからです。そしてこれら全てが、わたしたちへの神の愛の姿なのです。わたしたちはイエス・キリストにおいて、わたしたちへの愛のゆえに人となられた神の愛の姿を知ることが出来たのです。わたしたちのキリスト者としての信仰は、イエス・キリストにおいて神が示しておられる、わたしたちへのこのような神の愛を信じる信仰なのです。

3年周期で一巡りする典礼暦のB年に当たる今年の年間主日で、わたしたちはマルコ福音書が語る、人となられてわたしたちの世界に生きてくださったイエス・キリストのご生涯のメッセージに耳を傾けるように招かれています。し

かし、それに先立って、今日の年間第二主日の福音は、今聴いたようにヨハネ福音書全体に渡って語られる、イエス・キリストへの信仰を予め総括的に提示するヨハネ福音書の序文に続く、イエス・キリストとそのイエス・キリストを信じた最初の弟子たちのとの出会いを、わたしたちに思い出させようとしています。そこに、キリスト教の信仰を生きようとする、わたしたちにとっての信仰の原点が示されているからです。

ヨハネ福音書の冒頭に置かれて序文において、わたしたちが信じるイエス・キリストは、肉となって、つまり一人の具体的な人となって、わたしたちの世界の中に来てくださり、わたしたちとともに生きてくださった神のみことばとして示されています。神はイエス・キリストにおいて、わたしたちの世界に語りかけてくださったのです。その神のわたしたちへの愛の想いが、わたしたちの心に届くように、神のみことばであるお方、つまり神の愛そのものを示す神のみことばは、わたしたちと同じ肉のいのちを生きるために、人となってわたしたちの世界に来てくださったのです。それは、肉のいのち、すなわちこの世のいのちを生きるわたしたちに全く新たないのちの光をもたらすためです。神のみが、この肉の世に生きるわたしたちに、生きて行くためのいのちの光をもたらすことが出来るお方だからです。

このようにして、わたしたちの世界にいのちの光をもたらすために来てくださった、神のみことばを聴くためには、肉となられた神のみことばとしてのイエス・キリストと出会わなければなりません。

けれども、肉となってわたしたちの世界に来てくださった神のみことばであるイエス・キリストは、まさにそのことによって、この世の肉のいのちを生きるわたしたちと同じように、限られた肉のいのちの時間の制約をその身に引き受けてくださったのです。それがみことばの受肉ということです。そうであるなら、わたしたちは肉となってわたしたちの世界の来てくださった神のみことばであるイエス・キリストとどのように出会うことができるのでしょうか。

今日の福音は、わたしたちのカトリック教会が伝えてきた、イエス・キリストと遠く時空を隔てて今の肉の世を生きるわたしたちとの信仰における出会いの秘密を明らかにしようとしているのです。ここに登場する最初の弟子たちは、神の特別な示しによって、イエス・キリストを知ることが出来た洗礼者ヨハネが指し示して見せたイエスの後について行った人々です。ここから全てが始まったのです。「ラビ、どこに泊まっておられるのですか」と尋ねた彼らに、イエスは「来なさい。そうすれば分かる」と言われて彼らをご自分のもとに呼んでくださったのです。そして彼らは、洗礼者が指し示したイエスのうちに神が遣わしてくださったメシア、救い主を見ることが出来たのです。最初にイエス

と出会ってイエスを信じたアンデレは、兄弟のシモンに、「わたしたちはメシアに出会った」と言って彼をイエスのもとに連れて行きます。そのシモンにイエスは、「あなたをケファ・ペトロと呼ぶことにする」と言われたことが、今日わたしたちが聴いた福音の締めくくりです。今日、わたしたちがあらためて聴いた今日の福音のこの結びのことばは、わたしたちの心にどのように響いたでしょうか。ここにカトリックの信者となることによって、わたしたちが受け入れたわたしたちのカトリック教会に伝えられて来た、イエス・キリストとの出会いの秘密が語られているのです。わたしたちはイエス・キリストご自身がペトロをいしずえとして、全ての人を御自分との出会いに招くためにお立てになった教会と出会うことによって、その教会に伝えられてきたイエス・キリストをメシア、わたしたちの救い主として信じる信仰を生きる者とされ、その信仰によって、イエス・キリストと出会うさせていただいたのです。わたしたちのカトリック信者としてのイエス・キリストへの信仰は、このようにして、今日の福音が語るあの最初の時に、弟子たちをご自分のもとに呼んでくださったイエスと結ばれているのです。

あの最初の時に、洗礼者ヨハネはイエス・キリストを指し示しつつ、「見よ、神の小羊」と告げたことが今日の福音の最初に語られていました。最初の弟子たちは、この洗礼者のことばに背中を押されるようにして、イエスの後について行ったのでした。そして、そこから始まった教会の信仰の中で、わたしたちは今日もこのミサの中で、「世の罪を除きたもう神の小羊」と、わたしたちの主イエス・キリストへの信仰を表明するのです。このミサでわたしたちは、わたしたちのためにいけにえの小羊となって、十字架の上にそのいのちをささげてくださいましたイエス・キリストに結ばれて、「わたしの記念としてこれを行いなさい」と言われたイエスのみことばに従って、世の罪を除くためのイエス・キリストの十字架の死によるいけにえの記念の祭儀を、神にささげようとしているのです。この肉の世に神がもたらしてくださった、わたしたちの世の罪を取り除いて、わたしたちをご自分の子らとして招いてくださった神の愛のみことばに対する、わたしたちの感謝に満ちた信仰による応答として、今日も新たな心でこのミサをおささげしたいと思います。

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高